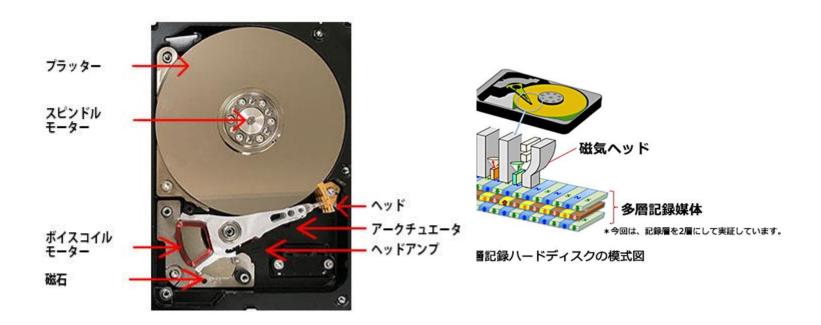
システムプログラム 第3回

創域理工学部 情報計算科学科 松澤 智史

計算機内部の情報表現

・現代の計算機は情報を2値の信号として格納している

例:HDD

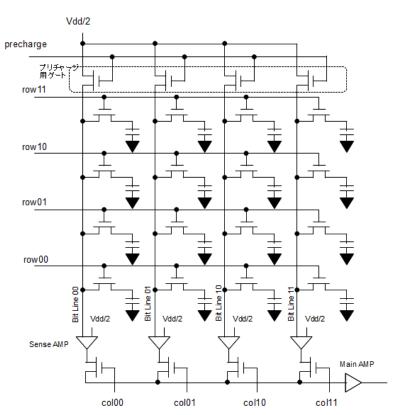


計算機内部の情報表現

・現代の計算機は情報を2値の信号として格納している

例: DRAM





コンデンサに電荷がある場合は1 ない場合は0

ビット

- 一つの数値に過ぎない「ビット」がディジタルの基礎
 - ・10本の指を持つ人間は10進表現を使うことが一般的
 - ・情報を格納して処理する機械は2進表現が効果的
- ・複数のビットをグループ化し、様々なビットパターンに 何かの解釈を与えることで、任意の有限集合の要素を表現
 - ビットは一つだけでは大した価値を持たない
 - ・数値としての解釈
 - ・文字としての解釈
 - ・画像としての解釈
 - ブール値としての解釈 など
- ・本日はビットパターンの解釈(表現)について学ぶ

ちょっと実験

```
~/work/3IS/SystemProgram
                                                              X
tusedls11$ cat int.c
#include <stdio.h>
int main(){
  int n = 200;
printf("%d\n",n);
n = n * 300;
  printf("%d\n",n);
  n = n * 400;
printf("%d\n",n);
n = n * 500;
printf("%d\n",n);
tusedls11$ gcc int.c -o int
tusedls11$ ./int
200
60000
24000000
-884901888
tusedls11$
```

- 200 * 300 * 400 = 24000000
- $200 \times 300 \times 400 \times 500 = -884901888$?

数値としての解釈

- ・数の表現方法: 3種類のエンコーディング(解釈のルール)
 - 符号なしエンコーディング
 - ・ 符号ありエンコーディング(2の補数エンコーディング)
 - ・ 浮動小数点エンコーディング

符号なしとありのエンコーディング

8ビットの数で考える

ビット表現	10進表現
00000000	0
00000001	1
00000010	2
00000011	3
01111111	127
11111111	255

符号なし

127(01111111)+1(00000001) = 128(10000000)255(11111111)+1(00000001) = 0(00000000)

ビット列で見た場合は符号あるなし関係ないが、 計算機上のエンコーディングに則った 演算結果(表記)となる

ビット表現	10進表現
00000000	0
00000001	1
00000010	2
00000011	3
01111111	127
11111111	-1

符号あり

127(01111111)+1(00000001) = -128(10000000)-1(11111111)+1(00000001) = 0(00000000)

最初の1ビットが0の場合は0以上の値 最初の1ビットが1の場合は負の値 最初の1ビットは符号ビットとも呼ばれる

2の補数

• 補数

- ・ある基数法において、ある自然数 a に足したとき桁が1つ上がる (桁が1つ増える)数のうち最も小さい数をいう
- 符号ありの場合は負の数を求めることになる
- ・2の補数の求め方
 - 10010010をビット反転→01101101(1の補数)
 - 1の補数に+1する 01101110
- 例
 - $39(00100111) \rightarrow -39(11011001)$
 - $1(00000001) \rightarrow -1(11111111)$
 - 39(0000000 00000000 00000000 00100111) \rightarrow -39(11111111 11111111 11111111 11011001)

余談:負の数の考え方

 $0001 = 1_{10}$ では -1はどうする?

符号ビットで正負をつける $1001 = -1_{10}$ とする

数なので演算可能でなければならない 1₁₀ + (-1₁₀) = 0001 + 1001 = 1010 = -2₁₀? 場合分けする?→面倒

反転を使う

 $0001 = 1_{10}$, $1110 = -1_{10}$ とすると $1_{10} + (-1_{10}) = 0001 + 1110 = 1111$ $1111 = 0_{10}$ とするならばこれで良い(1の補数の考え) ただし, 0000と1111の2種類の 0_{10} が存在する

反転した数+1を使う $0001=1_{10},\ 1111=-1_{10}$ とすると $1_{10}+(-1_{10})=0001+1111=[1]0000$ これが2の補数

C言語での符号ありなし整数型

- 8ビット整数型
 - char (符号あり)
 - unsigned char (符号なし)
- 32ビット整数型
 - int (符号あり)
 - unsigned int (符号なし)

```
tusedls11$ cat int2.c
#include <stdio.h>

int main(){
   char n = 127;
   n = n + 1;
   printf("%d\n",n);
}
tusedls11$ gcc int2.c -o int2
tusedls11$ ./int2
-128
tusedls11$ ...
```

```
tusedls11$ cat int2.c
#include <stdio.h>
int main(){
   unsigned char n = 127;
   n = n + 1;
   printf("%d\n",n);
}
tusedls11$ gcc int2.c -o int2
tusedls11$ ./int2
128
tusedls11$
```

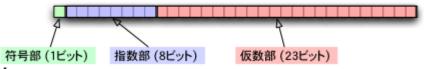
余談:16進表現

- ・ビット表現(2進表現)は冗長
- ・10進表現はビット表現との相互変換が面倒
- → 計算機内の情報表現では16進表現(16進記法)が好まれる

ビット表現	10進表現	16進表現
00000000	0	00
0000 <mark>0001</mark>	1	01
00001111	15	0F
0001 <mark>0001</mark>	17	11
01111111	127	7F
11111111	255	FF

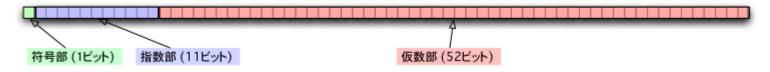
浮動小数点エンコーディング

- 符号部、指数部、仮数部からなるエンコーディング
- float型
 - 4バイト(32ビット)
 - float の表す値 = (-1)^符号部 × 2^(指数部-127) × 1.仮数部 float 型 (4バイト=32ビット) の内部表現



- double型
 - 8バイト(64ビット)
 - double の表す値 = (-1)^符号部 × 2^(指数部-1023) × 1.仮数部

double 型 (8バイト=64ビット) の内部表現



浮動小数点エンコーディング(例)

2.0の場合

- float型
- double型
 - 0 10000000000 000000.... 0000000000 (符号部0 指数部1024 仮数部0)

0.5の場合

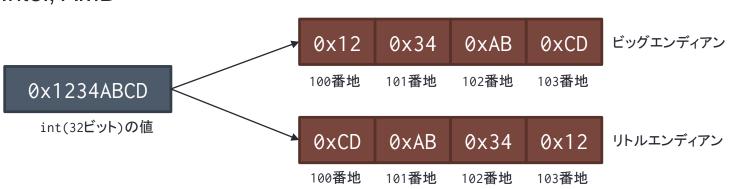
- float型
- double型
 - 0 01111111110 000000.... 0000000000 (符号部0 指数部1022 仮数部0)

```
~/work/3IS/SystemProgram
tusedls08$ cat float.c
#include <stdio.h>
union Float{
  float f;
  unsigned char c[4]:
void float dump(char *p){
  for(i=3;i>=0;i--){
printf("%02x ",p[i]);
  printf("\n"):
int main(){
  union Float n:
  n.f = 2.0:
  float dump(n.c):
tusedls08$ gcc float.c -o float
tusedls08$ ./float
   00 00 00
tusedls08$
0100 0000 0000 0000 0000 0000 0000 0000
```

余談:バイト・オーダ

多バイトをメモリに格納する際に、格納する順番の違い

- ビッグエンディアン
 - 最上位ビットの属するバイトを低位のアドレスへ格納していく方式
 - SPARC(IBSun Microsystems), PowerPC(リトルもサポート), Cell
- リトルエンディアン
 - 最下位ビットの属するバイトを低位のアドレスへ格納していく方式
 - Intel, AMD



Sun © @ 1919, 5MI Ultra SPARCII C9209505 9950 PC20 G52 USA STP 1031 LGA 980





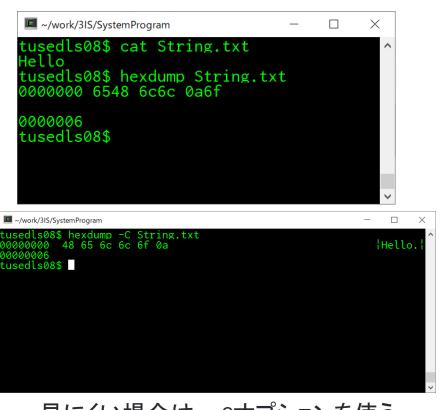
ビッグエンディアンは人間が理解しやすい リトルエンディアンは計算機が操作しやすい

文字列

ビット列を文字列エンコーディングで解釈する

ASCIIコード

	0	1	2	3	4	5	6	7
0	NUL	DLE	SP	0	@	P	`	р
1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q
2	STX	DC2	"	2	В	R	b	r
3	ETX	DC3	#	3	С	S	υ	s
4	EOT	DC4	\$	4	D	Т	đ	t
5	ENQ	NAK	બુ	5	E	ם	Φ	u
6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	٧
7	BEL	ETB	,	7	G	W	g	w
8	BS	CAN	(8	Н	Х	h	×
9	HT	EM)	9	I	Y	i	У
A	LF	SUB	*		J	Z	j	z
В	VT	ESC	+	;	K	[k	{
C	FF	FS	,	٧	L	/	1	_
D	CR	GS	-	=	М]	m	}
E	so	RS		۸	N	۲	n	l
F	SI	US	/	?	0	_	0	DEL



見にくい場合は -Cオプションを使う

日本語文字列

- UTF-8 (Windows, Mac, Linux 最近の標準エンコーディング)
 - ・日本語の平仮名, カタカナ,漢字などは3バイトで1文字を表現
 - あ(e38182) い(e38184) う(e38186)松(e69dbe) 澤(e6bea4)



UTF

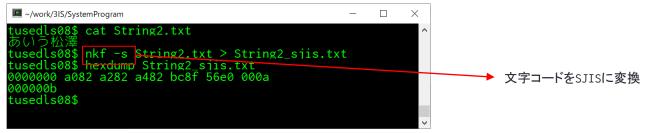
UCS <u>Transformation Format</u> UTF-8 UTF-16 UTF-32などがある ASCIIと透過性があるのはUTF-8

- ASCIIと共存可能(UTF-8の1バイト文字)
 - ASCIIは先頭4ビットが0-7
 - 先頭4ビットがA,B,C,Dの場合は2バイト文字(ラテン文字, ギリシア文字など)
 - 先頭4ビットがEの場合は3バイト文字
 - 先頭4ビットがFの場合は4バイト文字(絵文字, 顔文字など)

今(e4bb8a) 4(34) 時(e69982)

日本語文字列 その2

- ・SJIS(Shift-JISコード日本語対応 Windows標準)
 - 日本語の平仮名, カタカナ,漢字などは2バイトで1文字を表現
 - ・あ(82a0) い(82a2) う(82a4)松(8fbc) 澤(e056)



- UTF-8と違い日本語のみ
- UTF-8とは互換性なし
- ・日本語文字1文字が2バイトと軽量
- ASCIIとは互換がある
 - 1バイト目が00~80 あるいはa0~df は1バイト文字と解釈
 - 1バイト目がa0~df は半角カナ文字

日本語文字列 その3

- その他の日本語文字エンコーディング
 - ・JIS(電子メール等で使用)
 - ASCIIと共存不可
 - ・ 漢字IN 漢字OUTのコードがあり,漢字OUTのコードの後はASCIIと解釈
 - EUC (Unix系OSで長らく使用)
 - 1バイト目が 00~7f はASCIIと解釈 8eの場合は半角カナの1バイト文字

- ・余談:文字化け
 - エンコーディングによって同じ日本語文字でもビット列が異なる
 - 想定されていないエンコーディングで解釈した場合に文字化けが発生する

余談: C言語のchar型

- 1バイト文字(ASCII)を格納するためのCharacter型(8ビット)
- ・中身はビット列(数値)なので、演算が可能(言語による)

```
tusedls08$ cat char.c
#include <stdio.h>

int main(){
  char c = 'A':
   c = c + 1:
  printf("%c\n".c):
}
tusedls08$ gcc char.c -o char
tusedls08$ ./char
B
tusedls08$
```

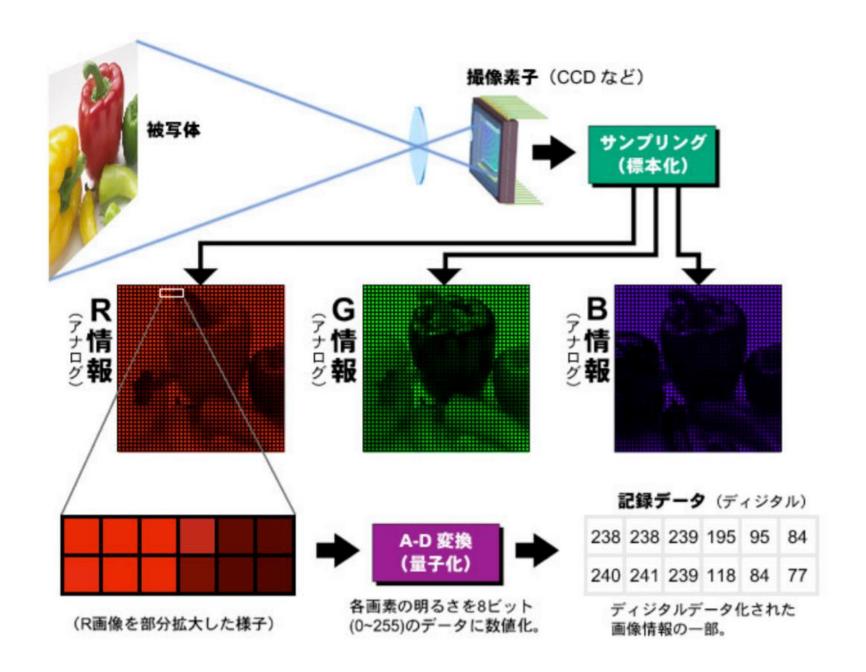
 $A' = 0 \times 41$, $A' + 1 = 0 \times 42 = B'$

画像

BMP

- Windowsで使われる標準的なフォーマット
- ・ファイルヘッダ:14バイト
- 情報ヘッダ: 40バイト
- ・画像データ:可変長バイト





ブール代数

- 論理値の真・偽を{0,1}としてエンコード
- ・ビット列で情報を保持しているデータに対しても論理演算可能

```
NOT ~ (反転)
AND &
OR |
XOR ^
p = 0 → ~p = 1
p = 1, q = 1 → p&q = 1, p^q = 0
```

```
tusedls08$ cat bool.c
#include <stdio.h>

int main(){
  char a = 2;
  char b = 3;
  printf("%d\n". a^b);
}
tusedls08$ gcc bool.c -o bool
tusedls08$ ./bool
1
tusedls08$
```

```
tusedls08$ cat bool.c
#include <stdio.h>

int main(){
  char a = 0xFF;
  char b = 0xF3;
  printf("%02x\n", a^b);
}
tusedls08$ gcc bool.c -o bool
tusedls08$ ./bool
0c
tusedls08$
```

 $2(00000010) ^ 3(00000011) = 1(00000001)$

 $0xff(11111111) ^ 0xf3(11110011) = 0x0c(00001100)$

余談: &と&&, ~と! の違い

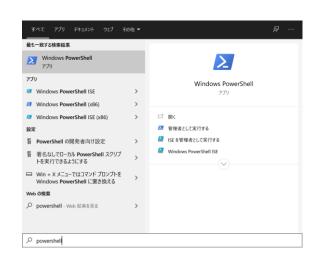
- ~(NOT) &(AND) |(OR) ^(XOR)は厳密にはビット・レベル演算子
- •!(NOT) &&(AND) ||(OR) は論理演算子
- $0xff(111111111) \mid 0xf3(11110011) = 0x0c(111111111)$
- 0xff(111111111) | | 0xf3(11110011) = 0x01(00000001)
- ! 0xf3(11110011) = 0x00(00000000)
- $\sim 0xf3(11110011) = 0x0c(00001100)$
- ・論理演算子は0(偽)かそれ以外(真)として論理演算する
- ・結果として真の場合は0x01を出力する

まとめ

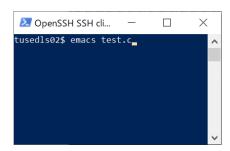
- ・ コンピュータは情報をビットにエンコードし、ビットはバイト列として構成される
- 異なるエンコーディング(バイト列の解釈の方法)が、 数値、文字列、画像・・等に用いられる
 - ・ 数値には大きく分けて以下の3つのエンコーディングがある
 - 符号ありエンコーディング
 - 符号なしエンコーディング
 - 浮動小数点エンコーディング
 - ・ 文字列はASCII(1バイト)をベースとし、様々な文字への拡張エンコーディングが存在する
 - UTF-8 あらゆる文字を組み込む国際的なエンコーディング
 - SJIS 日本語文字対応エンコーディング
 - 他, JIS, EUC
 - 画像
 - BMP, JPG, PNG....など
 - ブール代数
 - 真偽を0.1と表現, 論理演算も可能

質問あればどうぞ

C言語の動作確認環境(Windows10 PS)



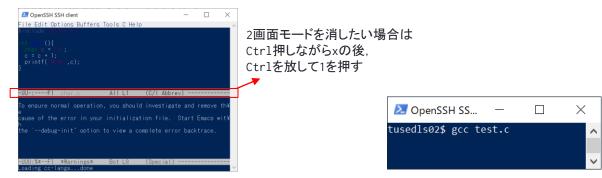
1. PowerShell起動



3. エディタ(emacs)で 編集したいファイル名を指定



2. sshで大学のUNIX(CentOS)へリモートログイン



- 4. 編集後保存(Ctrl押しながらx sの順で押す)
- 5. エディタ終了(Ctrl押しながらx cの順で押す)
- 6. コンパイル等をする
- 7. ログアウトはexitと入力 またはCtrl押しながらdを入力